

日刊  
THE NIKKAN  
工業  
KOGYO SHIMBUN  
新聞  
3月11日 金曜日  
2022年(令和4年)

## フェイス、EMS能力増強

実装機増設・事務部門集約



新棟に事務系部署を集約した

### 部品リプレースに対応

【立川】フェイス(相模原市南区、荒井勇輝社長)は、電子機器製造受託サービス(EMS)の生産能力を増強した。事務棟を新設し、事務系の部署などを集約、本社工場改装に伴い、表面実装機(マウンター)を増強した。主に半導体製造装置向け需要が拡大したことへの対応で、総投資額は約3億3000万円。生産能力拡大により、2022年3月期の売上高見込みが約14億円を23年3月期に16億5000万円へ引き上げる。

事務棟は本社工場から新設、3月から本格稼働した。隣接地に移転した。土地面積は827平方メートル。建物は2階建てで延べ床面積は495平方メートル。総務・経理・開発・営業部を移管し、食堂と更衣室を備えた。フェイスは派遣社員やパートを含め、110人が在籍しており、うち25人程度が事務棟で働く。同社は18年に本社工場を増築したが、需要拡大に伴う新規設備導入にあたり手狭となったため、今回の事務棟新設を決めた。今後、生産中止部品を流算回

路が自由に書き換えられるLSI(FPGA)などで再設計・製造するリプレースソリューションにも力を入れる。フェイスはEMS事業がメインで、多品種少量対応と電源関連の開発などを得意とする。同社は15年にフジブリグループ(東京都八王子市)の傘下となった。同グループは26年度に全社合計で売上高100億円を目指している。

